

## 茶花

安釦冉  
AN ZHAORAN

日本には面白い文化がたくさんあります。私も大多数の留学生と同じように、小さい時から日本文化の影響を受けて、興味を持つようになりました。大学で日本語を勉強した後に日本へ留学することを決めました。日本に来てから、色々な日本文化を体験しましたが、その中で一番私を引きつけたのは日本の伝統文化、茶花です。この全ては2018年から話さなければなりません。

2018年4月、故郷に別れを告げ、一人で熊本に来ました。最初の気持ちはとても興奮して、日本での留学生生活を期待していました。すぐに現実には夢を砕かされました。元々自分は困難に直面して負けない人だったが、当時は日本語があまり上手ではなかったので、しばらくの間の生活の後で、多くの問題が現れて、性格も段々内気になって、人と交流する勇気がなくなりました。ちょうどその頃、大学の先生と目上の方が助けてくれました。大学の先生と話をしていた時、偶然にも茶花という日本の伝統文化を知りました。その後、大学の先生は私を茶花教室に連れて行きました。人生初の茶花作品は、生け花に対する自分の頭の中の印象に基づいて作られた物です。正直に言うと、最初は茶花に対する理解が浅くて、簡単に茶花と生け花を同じ事と考えました。そして、茶花教室の先生の説明を通して、茶花と生け花は全く違うものだという事が分かりました。茶花は茶道と密接に関係しており、茶花の中心思想は、「茶聖」千利休の『利休七則』の第三則、つまり「花は野にあるように」に由来しています。元々茶花は、生

け花から派生して発展したものとされています。しかし、茶花の中で、「花を生ける」は「花に入れる」と称しなければならなくて、花器も「花瓶」と称することができなくて、「花入」です。茶花は自然の中にあるままで入れることが重んじられているため、生け花のようにテクニク的に見せたり、花色の違う種類の花材を取り合わせたりする事がありません。また、西洋の花、名前の良くない花、香りの強い花、とげのある花、季節を無視して何時も咲く花と季節を過ぎた花は茶花として使えません。

基礎知識を身につけて、更に茶花を楽しむ事ができました。自分のレベルはよく分かっていたのですが、自分の感覚で茶花の作品を作るたびに教室の仲間から褒められていたので、当時は自信のない私にとって、大きな励みになりました。更に嬉しい事に年一回の茶花展にも出品するようになりました。

茶花通じて日本語も少しずつ話せるようになりました。SMAPが「世界に一つだけの花」で歌ったように、NO.1にならなくてもいい、もともと特別な Only One。花と同じ、自分の存在する価値を悟り、自信を取り戻しました。

茶花は私に孤独の中で心を充実させる意識を探させ、閑寂の中で自然に奥深いものと豊かな物の美しさを感じられました。これが日本文化の中で、いわゆる「侘・寂」なのかもしれません。